

東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第24回）会議録

1 開催日時

平成24年10月9日（火）午前10時00分から

2 開催場所

会議棟第2会議室

3 出席者

委員：青野かほる 荒川進 小川雅義 鈴木一徳 高嶋清和 渡辺理万
菊地明 菊地フミ子

事務局：阿部学校教育部長 田代学校教育課長 加藤特別支援教育係長
藤本学務係長

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者数

0人

6 議題

- (1) 報告書（案）の検討について
- (2) その他

7 会議資料

- (1) 会議次第
- (2) 東大和市学校規模等のあり方検討委員会 報告書（案）
- (3) 平成24年度言語障害通級指導学級設置校一覧

8 会議の要旨

【質疑等】

委員長： まず、特別支援学級の設置について検討したい。これまでの議論の結果を受けて、報告書（案）では、「小学校への通級の設置について、一小または四小に設置することが理想的だが、七小も選択肢に加えて、具体的には教育委員会において検討をお願いしたい。」こととされている。また、中学校への固定学級の設置については、五中が候補校となっている。

委員長： 小学校への通級の設置に関しては、一小、四小、七小が並列の候補

校となっているが、余裕教室数を考慮して、七小を候補校の中心とするのはどうか。設置校の候補は一つに絞った方が良いという考え方もあると思う。

委員： 一小と四小は余裕教室が少ないという事情があるので、七小に先に通級を設置して、その後は、児童数の推移や財政状況を考慮して再度検討するということが良いと思う。

委員長： それでは、報告書（案）の案文については表現を改め、七小を候補校の中心とするような表現としたい。

委員長： 次に、中学への固定学級の設置について検討したい。

委員： 前回までの会議においては、五中に知的障害と情緒障害の固定学級を併設する場合、知的障害の固定学級のみが設置されている一中も同様に併設とするかが問題となったと思う。このことについて、一中は施設的に難しいとのことであったのが、五中への固定学級の設置により一中の生徒数が減る可能性もあるので、可能であれば一中も併設とすることが望ましいと思う。他市においても、知的障害と情緒障害の固定学級を併設している学校が多い。

委員長： 一中の固定学級の中には、五中に情緒障害の固定学級が設置されれば、移った方が良いと思われる生徒もいると思う。ただ、五中では、固定学級用としては3教室程度しか確保できないとのことである。よって、五中に知的障害と情緒障害の固定学級を併設となった場合、教室が足りるか心配である。

事務局： 開設当初は3教室で立ち上げ、その後の生徒数の状況により、教室増等を検討することになると思う。五中には余裕教室があるので、教室の増は可能だと思う。

委員： 報告書（案）の案文では、「五中に設置する固定学級については、知的障害と情緒障害の併設とし、一中についても、五中と同様に併設することが理想的である。」となっている。委員会としては、このような考え方で良いのではないか。

委員長： 五中に固定学級を設置したときに、想定以上に生徒数が増え過ぎて、一中から五中に移った生徒がまた一中に戻るといったことがないようにしてもらいたい。

事務局： 一中の固定学級には、情緒障害の固定学級が設置されれば、移った方が良いと思われる生徒も混在しているのが現状だと思う。よって、五中への固定学級の設置を契機に、一中も同様に整理するかどうかだと思う。

委員長： 五中と一中に固定学級が設置されるとなった場合、学区域はどのようなのか。

事務局： 一つの案としては、青梅街道を境とするようなことも考えられると

思う。

委員： 一中の固定学級には、知的障害と情緒障害が混在しているのが現状であるので、一中についても併設とした方が良いと思う。

委員長： 一中に情緒障害の固定学級を併設するにしても、現状の施設が前提になると思うが、それで東京都への届出などの際に問題となったりしないのか。

事務局： 届出においては、必ずしも学級数に応じた教室数を確保する必要はなく、市教育委員会として届出をすれば、認められると思う。

委員長： 知的障害と情緒障害とでは、進学や就学の面で大きく異なってくるので、明確に分けた方が良い。よって、現在の一中のような形ではなく、知的障害と情緒障害は分けて併設とした方が良いと思う。

委員： 一中の固定学級は現在、生徒数が増えており、教室数に余裕がないので、そのような状況で併設とすることについて心配な面がある。

委員長： 極端な話、五中の固定学級については、情緒障害のみとするという方法もあると思う。

事務局： 他市においては、情緒障害の固定学級は1学級のみとところが多く、知的障害と比べて学級規模は大きくない。よって、東大和市においても同様の傾向となることが予測されるので、併設の方が良いのではないか。

委員： 現状のスペースのままで、一中に情緒障害の固定学級を併設することについては、やはり心配である。

事務局： 一中に情緒障害の固定学級を併設する場合、知的障害と情緒障害の教室については、それぞれ明確に区分けした上で東京都へ届出することとなる。確かに、現在の生徒数を前提にするとスペース的には厳しいが、五中への固定学級の設置により、一中の生徒数はある程度減ると考えている。

委員： 一中の固定学級を視察した際に、知的障害と情緒障害は明確に区分けした方が良いと感じた。五中に新たに固定学級を設置すれば、一中の生徒数は減ると思うので、一中についても、情緒障害の固定学級は併設した方が良いと思う。

事務局： これまでの議論の結果を集約すると、長期的には、一中に情緒障害の固定学級を併設することが望ましいが、当面は五中に知的障害と情緒障害の固定学級を設置し、その後の生徒数の推移を見ながら、一中への併設について検討することになると思う。

委員： 一中の固定学級を視察した際、スペース的に厳しいと感じたので、五中に情緒障害の固定学級を設置して、一中の生徒数を減らすことが大切だと思う。

委員長： もう少し一中で教室が確保できて、情緒障害の固定学級を併設でき

れば理想的ではあるが、職員室も明確に分けた方が良くと思うので、現状のスペースでは厳しいと思う。

委員： スペースの問題で、一中への情緒障害の併設が困難であるならば、先送りにしても仕方ない。

委員長： この委員会の結論としては、報告書（案）の案文のとおり、「五中に設置する固定学級については、知的障害と情緒障害の併設とし、一中についても、五中と同様に併設することが理想的ではあるが、施設的な問題が生じることから、教育委員会において検討をお願いしたい。」としたい。

委員長： 特別支援学級の設置にあたっては、保護者説明会の開催が必要になると思う。その際には、通級を利用している児童・生徒の保護者も対象にした方が良く。

事務局： 保護者に対する説明については、適切な時期に実施をしていきたい。

委員長： 次に、言葉と聞こえの教室について検討したい。他市では、多くの市において、言葉と聞こえの教室が設置されている。

委員： 他市では、どのような内容で、何人の先生が、どのくらいの人数の児童・生徒を指導しているのか。

事務局： 聞こえについては、専門性のある教員や学習環境が充実している立川ろう学校が近くにあることから、その通級指導を活用したいと考えている。言葉については、言語障害の通級指導学級で、言葉をうまく発せない等の児童・生徒を対象にしている。一般的には、対象の児童・生徒は週1回45分～90分程度通級して、1対1の個別トレーニングを受け、発語の改善を図っている。他市では、半年や1年程度で改善が図られて、退級するケースが多いと聞いている。

委員： 発語については、年齢が小さいほど改善が速いと聞いている。

委員長： 対象となる児童・生徒は、どのくらいいるのか。

事務局： 正確に把握はしていないが、保健センターや保護者から、このような施設の有無について照会を受けることはある。

委員： 言葉の教室を設置する場合、最低限必要なスペースと人員はどのくらいか。

事務局： 言葉の教室は完全に個別指導であるので、職員室とは別に2分の1教室や4分の1教室を確保できれば良いと考えている。時間通級であり、1日当たりの利用人数も少ないので、1人ないし2人の先生がいれば良いと思う。運動面や心の面が原因で発語が遅れているケースもあるので、プレイルームもあった方が良く聞いている。情緒障害の通級学級よりもやや少ないスペースで対応可能であると考えている。

委員： 言葉の教室を設置する場合、特別支援学級と併設した方が良くなどの考え方はあるのか。

- 事務局： 情緒障害の通級学級と併設すれば、プレイルームなどを共用できる利点があるので良いと思う。
- 委員： 言葉については、出来るだけ早い段階での手当てが重要だと思う。他市でも多く設置されており、当市にも、言葉の教室はあった方が良くと思う。
- 委員： 三小の教育センター内に言葉の教室を設置するのはどうか。
- 委員長： そうすれば、就学前の児童も対象にすることができ、早い段階での手当てが可能となると思う。
- 事務局： ただし、教育センター内に設置するとなると通級ではないので、都負担の教員は配置されず、市の負担で配置しなければならない。事業の継続性を考えると、東京都が教員を配置する通級の方が現実的ではないか。
- 事務局： この委員会で言葉の教室の設置が望ましいということになれば、今後小学校に情緒障害の通級を設置する際に、併設できないか検討したいと考えている。
- 委員： まず、対象の児童数を把握することが前提だと思う。どれくらいの必要があるかを調査して、検討した方が良くと思う。
- 委員長： 保健センターでは、ある程度の人数は把握しているのではないか。
- 委員： 言葉と知能は関係が深いので、言葉は大事に考えた方が良くと思う。
- 事務局： 言葉と聞こえの教室のうち、聞こえの教室については立川に専門の機関があるので、市で設置するのは言葉の教室になると思う。次回会議までに、どのくらいニーズがあるのか調査したい。
- 委員長： 現時点では、今後小学校へ情緒障害の通級を設置する際には、言葉の教室の併設についてもあわせて検討することが望ましいということでもとめたい。
- 委員長： 次に、通学区域の弾力化への対応について検討したい。この議題については以前もこの会議の中で話題となっており、その際には、学校選択制の導入を含めた通学区域の弾力化は難しいという考えだったと思う。今回、特段の意見がなければ、この考え方を委員会の結論としたい。
- 事務局： 地域との結びつきを考慮して、指定学校制を今後も採用するという事で良いか。
- 委員長： 結論はそれで良いが、資料として「指定学校変更承認基準」を報告書に添付した方がよりわかりやすくなると思う。
- 委員長： 次に、七小と九小の統廃合について検討したい。この議題についても以前この会議の中で話題となっているが、改めて確認することとしたい。報告書（案）の案文は、これまでの議論結果を集約して、「現状の学校施設を前提にすると統廃合は困難であり、地域との関係を考慮

すると統廃合は時期尚早」となっている。

事務局： 新青梅街道を挟んだ南側の二小、八小、十小エリアについては、今後も児童数が増え続ける可能性があり、将来的には、七小・九小との間で通学区域を変更・調整せざるを得なくなることも考慮する必要があると思う。

委員長： 今回、特段の意見がないようであるので、この委員会の結論としては、報告書（案）の案文のとおりとしたい。

委員長： 次に、五小の小・中連携について検討したい。この議題についても以前この会議の中で話題となっているが、改めて確認することとしたい。報告書（案）の案文は、これまでの議論結果を集約して、「第五小学校の通学区域は今後、変更・調整される可能性があることから、小・中連携に向けた通学区域の変更・調整については、中・長期的な視点に立って検討すべきである。」となっている。

委員長： 今回、特段の意見がないようであるので、この委員会の結論としては、報告書（案）の案文のとおりとしたい。

委員長： 最後に、八小及び十小の増築後の対応について検討したい。

事務局： 市の南西部地域における児童数の増加への対応については、八小において校舎の増築をし、さらに児童数が増加した場合には、十小でも増築を行うこととされている。今回は、この両校における増築後、この地域でさらに児童数が増加した場合の対応について、例えば新青梅街道を渡って通学することも想定するなど、ある程度方向性を出してもらえればと考えている。

委員長： そこまで長期的な話となると、市の南西部地域だけではなく、例えば学区内にも数多くの空き地がある七小なども、対策を検討しなければならなくなるのではないか。これまでの議論の中では、新青梅街道を渡って通学することは避けるべきとの考え方を前提に対策を検討してきており、現段階でそれを崩すのはどうかと思う。

委員： この段階で、これまでの考え方を崩すのは無理だと思う。

事務局： 今後、新青梅街道を渡って通学せざるを得ないような事態になった時には、交通安全の観点から交通擁護員を配置するなどの条件を付けるというのはいかがでしょうか。

委員長： 報告書にそのような記載をすることで、逆に市民に不安を与えないか心配である。

委員： 十小の増築スペースは余裕があると思うので、今後も増築による対応は不可能ではないと思う。

委員長： 増築による対応が可能であるならば、新青梅街道を渡って通学するよりも良いと思う。

委員： いずれにしても、かなり長期的な話となるので、現段階で方向性を

出すことは困難である。極端な話、現在の通学区域では対応できなくなつた時には、市全体で通学区域を変更するといった対応も必要となるかもしれない。

委員長： この委員会としては、八小及び十小の増築後の対応という長期的な話については、現段階で方向性は出すことは難しいという結論でまとめることとしたい。

委員長： なお、八小・十小を増築する際には、今後児童数が減少して教育センター等の他施設に転用する可能性もあることを視野に入れて、設計した方が良くと思う。

事務局： 報告書（案）については、今日の議論結果を受けて一部修正等をするので、次回会議においてまた議論をお願いしたい。なお、報告書（案）から漏れていて、付け加えた方が良くと思われる議題があれば、事務局に連絡をお願いしたい。